

府中市健康地域づくり審議会
第10回次世代創造分科会 報告書

- 1 日 時：平成27年2月18日（水） 13：30～15：00
- 2 場 所：府中市役所2階第1応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）
吉 原 純（分科会委員） 水 主 川 緑（分科会委員）
坂 永 弥 生（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）
出 原 慎 之（分科会委員） 寺 岡 暉（職権委員）
花 田 三 恵（府中市教育委員会学校教育課）
河 村 久美子（府中市子育て支援センター）
古 川 教 子（府中市立上下保育所）

4 概 要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 議事

- ①議題 「府中市子ども・子育て支援事業計画」策定について
- ②議題 新制度に向けた条例等の整備について
- ③議題 施策の進捗状況と新年度事業について

【主な質疑・意見】

- ①議題 「府中市子ども・子育て支援事業計画」策定について

委員：このパブリックコメントの結果はホームページで公開されるのか。

事務局：ホームページで公開する。

委員：幼保小の連携とは、具体的にはどのようなことをしているのか。

事務局：各学区の小学校の先生に保育所へ子どもの様子を見に来ていただいたり、入学前の年長の子どもの就学に向けて連携を行っている。しかし、まだ年間を通しての回数は少なく、日頃から連携を持つような関係はこれから構築していかなければいけない。

委員：顔の見える幼保小の連携というのは、誰と誰の顔をどういう趣旨で書かれていたのかももう少し詳しく教えていただきたい。指導者同士の連携はされているようだが、実際子どもをみてという趣旨なのかどういったことを伝えたい質問だったのか。

事務局：地域の方にそういった保小の連携が見えにくいというのはあると思う。行事の伝えあいや必要最小限の連携しか持っていないのではないのかという意味で受け止めたが、今後充実させていかなければと思う。

事務局：伝わっていないということが課題だと思う。より工夫して保護者の方に伝わるような連携が必要。

委員：連携のところで、保護者の方から「何も言ってくれるな」ということを言われることがある。地域の方がどのような連携を思われているのか。子どもについての連携なのか。

事務局：細やかなということになると思う。つながっていないというイメージを持たれているという意見だと思うので、そこは今後の課題である。

委員：パブリックコメントが電子メールで2件というのは、想定していた件数なのか。少ないような気がする。

事務局：広く多数のご意見をいただくのが本意ではあるが、実際窓口で見られた方はおられない状況。ホームページで見られたという形で2件ではあるが、他市の状況を見ても反応は薄いという状況。

委員：母数が多ければいいということではないが、それが多ければ多いほど深く考えられると思う。

委員：保護者等の意見を聞くと、この制度が分かりにくいいため、逆にコメントができないのではないかなと思う。周知してないところがこのコメントの少なさにつながっているのではないかなと思う。

事務局：期間的なこともあると思う。実際パブリックコメントの実施についてのお知らせも広報で行っている。ただ、その世代の方が広報を見られている方ばかりではない。なかなか周知できていないというのも一因だと思う。また、自分たちの生活とあまり密着していないような受け止め方をする方が多いのか。

委員：里帰り出産をするとき、手続きをして帰らないと広域保育を受けられないが、それは国が決めているものなのか。

事務局：そういう仕組みになっている。

委員：知らずに里帰りしてしまっている方が結構おられる。緊急入院等で困られたということがあった。そういうときにでも地元で手続きをしていないとこちらで預かってもらえないということになっている。もっと周知をしたり、制度が変えられたり等何かないか。

事務局：制度的なところは市独自でできないところもあるが、周知をするとすれば、里帰りをするときにはおそらく在籍している保育所や幼稚園に話をされているはずなのでそういったところか。そこで問題なのは、籍を二か所におくことはできないということ。待機児童の多い保育所や幼稚園に通われていた場合、一端辞めると帰った時に入れられないという実態があるので、いくらこちらで受けることができてもそれをされない限りは保育所の入所はできない。そこで、来年度から検討しているのは、籍を移して入所していただくことはできないが、独自の市の一時預かりという方法。籍を置いたまま戻った場合は、1か月に10～

14日程度の一時預かりができるような方法を作っている。それ以上の対応となると、やはり一端保育所をやめるなどして来られれば入所できる。その手続きはこちらに移ってからでもできるが、やりとりが文書になるなどの面倒はあるが、それには変えられないものだと思う。

委員：私たちは今までアドバイスしたことがない。里帰りされたケースもあまりなく、無知なこともあるが、そういう情報を出したことが無い。

事務局：一端お休みされるということは何か理由があると思うので、どの保育所でもそういった情報提供できることが大切。そこは府中市でも検討していかないといけない。

委員：緊急入院等で、祖父母も働いているとなると、月10日くらいでは現実に困ってしまう。地元に戻ってまさかそういう手続きがいるとは想像しなかった方にどこかで情報提供されればいいと思う。

委員：情報共有や連携は制度的なこともあるかもしれないが、あとは府中市独自の広報で周知してもらえたらと思う。

委員：みんな（文書は）読まれないので、啓発しようと思ってもなかなか難しい。問題が起きた時に言われるだけなので、保育現場が知っていないとお母さん方にアドバイスもできないという気はする。

委員：この計画はどこに配るのか。

事務局：今後検討していく。他の計画もあるので合わせてということになる。概要版も作るのでそれは積極的に配っていく予定。

委員：46ページの窓口相談の「職員の窓口での接遇マナーの向上に努めます」というのがあるが、これはどういう意味か。

事務局：当然のことであるが、より市民に近い窓口としての機能を果たせるような職員の意識・レベルを上げるという意味で記載をしている。

委員：子育てプランの施策のところで関係ないような気がする。職員が向上することか。もう少し書き方を変えた方がいいかもしれない

また、「引きこもり育児や・・・」の部分で「支援が必要な保護者の掘り起こし」とあるが、課題の掘り起こしというのはあるが、保護者の掘り起こしというのは失礼という気がする。

委員：45ページ⑤の最後の部分に「講演会を開催します」とあるが、必ずしも講演会でなければいけないわけではないと思う。書き方の問題ではあるが、ニーズがこれだけではない気がするので、含みをもった表現にした方がいいのではないかな。

行政：言葉の修正だが、52ページの②こころの教育の3行目に「副読本」という表現があるが、これを「道徳教育用教材」にしていきたい。

委員：48ページ「食育」のところに、どう位置づけ、どう取り組んでいくかにもよ

るが、「木育」もあっていいのかなと思う。

事務局：５６ページ POM の建て替えのところに「木育」という言葉はあるが、項目として別にとり扱いにはしていないという状況である。

以上の計画案について承認

②議題 新制度に向けた条例等の整備について

事務局の説明に対し、特に意見なし。

③議題 施策の進捗状況と新年度事業について

委員：２６年度事業の「女子 Café」では各回参加者の感想や次のテーマへの希望などのアンケートはとっているのか。

事務局：とっている。そのアンケートを活かして来年度につなげていきたい。分科会でいただいた、女性だけではなく男性もというような意見も大変多かった。

委員：この支援サイトは利用されているのか。アクセス回数などはわかるのか。

事務局：現在のサイトは子育てサイトだが、なかなか利用が少ない状況。今スマートフォン対応のアプリを開発中で、何か情報を更新すればプッシュ機能を使ってお知らせをするようなこともできる予定。それも含めて内容も充実したものを作り上げて皆さんからのアクセス数を増やし、会員数も増やして何か困ったことがあれば、「ちゅちゅ」を見れば自分の必要な情報につながるようなそういうサイトにしていきたい。

委員：平成２７年度事業の④不妊治療支援事業だが、費用の面で諦めたという話をよく聞くが、どの程度の補助をお考えか。

事務局：現在不妊治療については広島県の補助事業があり、それは１回１５万円で回数制限がある。今度は年齢制限ができるようである。不妊治療は回数にもよるようだが、１回あたり４０～５０万円かかるので、平均して計算すると府中市が２５万円補助し、広島県の補助と合わせて４０万円となりだいたい平均したところをカバーできるのではないかとということで府中市では２５万円で計画をしていく。

委員：所得制限はないのか。

事務局：広島県の助成を受けている方を対象と考えているので、広島県の基準でということになる。

委員：そうすると、ほとんどの方が対象にならない。夫婦共働きをされていたら、結局受けられない。ギリギリのところだとすると、補助金も受けられないし、自分たちで賄うには厳しいという状況がある。

事務局：これまでの実績で言うと、年間２０～３０名が府中市内で助成を受けておられる。いろいろ課題はあるが、広島県も新年度には治療だけでなく、検査にも助

成を始めると聞いている。1万円くらいだったと思うが、いろんなところで拡充しながら考えていくようになるかと思う。他市に比べれば、額は多く設定したつもりである。

委員：実際、1回だけではなく、何回も受けて何百万円もかかるというのが実情なので、受けやすい制度になることを願う。

事務局：金額的なこともそうだが、肉体的・精神的な面でも大変だと聞いているので、市としてできることは経済的な支援からスタートしようかというところである。

委員：非常にいい制度を考えておられるようなので、進歩させていただきたい。また、経済的なこと以外にもメンタルなこともあるので、先にはそういうこともサポートしていただきたい。

また、27年度の事業中でも特に新規事業について今後のアイディアなどあれば、ご意見いただきたい。

事務局：女子 Café については女性の方は個人でも申し込みがあり参加いただいたが、男性に対してどのような講座をすれば皆さん来ていただけるのかというところが、イメージがつきにくいところがある。

委員：対象を一緒にするのか別々にするのかでテーマが違うかもしれない。

事務局：基本的には別々を考えている。最終講座で一緒にやるということは考えてみようかと思う。結婚に向けた機運の醸成・意識の改革というところを担っていききたい。婚活イベント等は民間がされているし、市内の NPO がされているので、そこは市の役割としてはそういったところでやっていきたい。

委員：この1回から3回の内容を見て、なぜ最初からこんな固いことをされたのかと思った。最初からからだの厳しい話を聞くのではなく、最初は本当に楽しいことから始めて、何回かの中にこういうことを少しずつ入れていって男女が一緒になる講座をしてという風にされたらよかった。一番最初から厳しい内容に入られたなと感じた。市だから真面目に固くだけではなく、もっと、わくわくして「なんて府中市って楽しいんだろう。素敵なんだろう」というところから始めていただきたい。行政だからということで、真面目なことだけでなく、いきいきと素敵に成長していく講座をしっかりとされて、内面から楽しいというものにしてもらいたい。わくわくしたいのだが、なかなか見えてこないのが残念。もっと早く言っていたはずだが、なかなか伝わりにくかったので、もう一度言わせていただくと、本当に笑顔があふれる府中市になるような楽しい計画も入れていただいたら、男女気持ちよく成長して、外見もとても大切なことなので、ファッションなり、髪型なりを素敵にしようということなども入れて、素敵な市にしたい。

委員：新年度は是非そのように。私は3回とも参加してみて良かったが、すごく緊張した。スイーツが出ても音をさせてはいけないくらいの感じだった。話しなが

ら、真面目なテーマについて聞いたり、髪型のことや歩き方についてなどを交えてもらいたいと思う。素敵なお感じだったがものすごく緊張した。イメージチェンジしていただくと、来る人が楽だと思う。

委員：情報発信というところが肝だと思う。楽しそうというのも市役所にもっと人が来て、ここから発信しているということが分かり、ここに聞きに来るというのを楽しくできればいい。例えば市役所の中にカフェがあったり、もっとここに気軽に来られる感じになったらいいと思う。ちゅちゅもサイトの使い方から教えないと「これを見てね」くらいではなかなか使いづらい。その講座を開くくらいして使い方を説明したほうがいいと思う。自分の登録をするようなものなので、ここに来たら登録していただくくらいしたほうが見にいこうかなとなると思う。

委員：今はネットより、Facebook、LINEの方だと思う。サイトに見に行くのではなくどんどん発信したのを見るという感じ。そういったものを大いに活用していったらどうか。結構頻繁に皆さんチェックしていると思う。情報を出すとすぐに反応も返ってくるので、どれくらい見ているかというのがわかりやすい。

委員：非常にいい取組をしておられる。行政の方が非常に一所懸命やってくさっているが、生真面目すぎる。特にこのカフェのやり方だと、どこかからアドバイザーのような企画者を呼んできたらどうか。内部のものでもいいが、民間の人に企画させてそれを整理するのはもちろん行政でしていただいて、そういったアクティブな民間の人を企画の中心としたらどうか。アドバイザーとして世の中に知られたような方を呼んだりして外の水を交えるというようにされると、もっと別のアイデアが出てくると思う。期待している。

委員：いろいろまた意見を活かして27年度の事業を進めていただきたい。

委員：「女性起業の支援」も非常に期待している。民間の中核となる人を連れて来てこの取り組みを良くしてわかりあえるようにしたらどうか。非常に期待されると思う。

(4) 事務連絡

(5) 閉会 分科会副会長あいさつ